

パソコン教室の窓から (19)

NPO 法人コミュニティ NET ひたち(Cnet) 久保 裕

新年に思うこと「報恩感謝」

2020年令和2年の子年の年初めに原稿を書いています。NHKの人気番組に出ている5歳のチコちゃんが年末の紅白歌合戦にも出てきて「ポーっと生きてんじゃねーよ！」と目から炎と煙を出して、いい加減に生きている大人が叱られていました。



私の年賀状の写真
木づちと3匹のネズミ

人はそれぞれに生き方があっていいのだが、最近のテレビはバラエティ番組やニュース・ショーに人気があり、タレントやコメンテーターの諸氏のご意見を活発に、また諸説を披露して楽しく話題を提供している。多くのギャラをもらっているのだろう、ということは視聴者が多く、番組を提供するスポンサーがあるということだ。

そのような引力にひかれて、自分と他人を比較して苦情や愚痴をこぼしたりしている人が、なんと多いことか。自分自身のことは自分ですることが疎かになっていないか、身近なことでは家事全般に自分のことを自分でしているだろうか。行政を批判したり、お金を頼りにして、自分で足を運び手を動かすことが少なくなっているのではないかと、思いをいたしている。

世間では病や金にかかわる事件、車社会の事故、そして国際社会では盗人猛々しい事件が話題を提供している。

ささやかながら人様に役立つために人生を過ごしていきたいものだ。他人のためにできること、人に喜んでもらえることは幸いなことで有難いことだと思う。

今年いただき日立市前市長の吉成明氏からの年賀状には、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いは求めぬよう」と後藤新平東京市第7代市長の言葉が添えられていた。

長いサラリーマン生活をしてきて専業主婦と二人で過ごす年金生活者にとっては、自分には苦手な仕事、やったことのない事をよろこんで引き受けていくことが大事だと思っている。ちょっと人に頼る心が起きるときボケが始まりそう。ささいなことでも人から指摘されたり叱られたりすると落ち込んでしまう。自分の殻に閉じこもることなく、ご恩に報いるよう感謝して生きたいものだ。

昨年ノーベル賞を受けた吉野彰博士は、「無駄なことをいっぱいしないと新しいことは生まれない」と言われている。

いくら年を取っても、「今までやったことがないから出来ないよ」などと言わず、チャレンジしてみようと大げさではなくても、若いころはどうだったろうかと思えば、好奇心も生まれてくるものだ。人のためになることが生きがいでよと、無駄なことをいっぱいしていこうと思う。